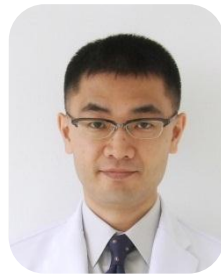


## 鼻中隔矯正術と後鼻神経切断術

牛尾 宗貴（耳鼻咽喉科部長）

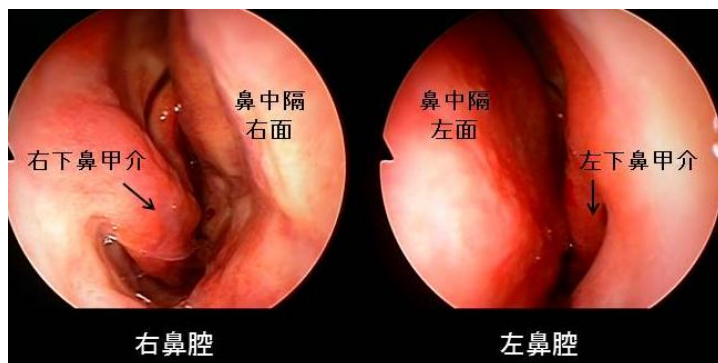
鼻詰まり（鼻閉）と鼻みず（鼻汁）は鼻の病気を持つ多くの方が訴えられる症状です。今回は、それぞれに対する手術をひとつずつご紹介いたします。



### 鼻中隔彎曲症に対する鼻中隔矯正術

みなさまは鼻中隔にどのようなイメージをお持ちでしょうか。「鼻が曲がっている」であるとか「鼻中隔が曲がっている」などと聞かれることも多いと思いますが、まさに「曲がっている」ために、あるいは、それによって鼻が詰まるために耳鼻咽喉科を受診されることが多いのが鼻中隔です。

鼻中隔は鼻の中（鼻腔）を左右に分けておりますので、イメージとしては鼻の間仕切りのようなものです。まっすぐであれば問題ないのですが、鼻中隔が曲がっており、それによろと思われる鼻詰まりが気になる場合には「鼻中隔彎曲症」と診断されて治療の対象となります。曲がっている鼻中隔により凸側（出っ張っている側）の鼻腔が狭くなって鼻閉が生じているわけですが、ここで生まれ



鼻中隔彎曲症をお持ちの患者さまの左右鼻腔ファイバー写真。鼻中隔が左方向に彎曲して「逆くの字型」となっている。また、右下鼻甲介は内方に突出して左下鼻甲介と比較すると粘膜が肥厚して大きくみえる。

る疑問が「ひっこんでいる側（凹側）は広いから鼻は通るんじゃない？」というものでしょう。しかし、なかなかうまくいかないもので、広がっている側は下鼻甲介（鼻の中の壁にある出っ張り）が突出していたり粘膜が腫れていたりとするため、結局両鼻が詰まることになるのです。（図参照）

鼻中隔彎曲症に対する鼻中隔矯正術と下鼻甲介腫脹に対する下鼻甲介粘膜切除術は全身麻酔あるいは局所麻酔で行われることが多く、所要時間は1時間程度です。

### アレルギー性鼻炎に対する後鼻神経切断術

スギやハウスダストなどに対して身体が過剰に反応する現象（アレルギー）が鼻で生じていると、アレルギー性鼻炎と診断されます。

アレルギー性鼻炎に対しては、通常まず保存的治療（内服、点鼻など）を試み、効果不十分であれば観血的治療（手術）について相談します。手術としてはレーザー治療（前出の下鼻甲介粘膜を焼灼）がよく知られていますが、少なくとも数年間は鼻みずの量を減らすことができる後鼻神経切断術も、近年広く行われるようになってきました。

後鼻神経は、鼻の後方から出て中鼻甲介や下鼻甲介といった部分に分布している神経で、主に分泌腺を支配しています。後鼻神経切断術の目的は、この神経を電氣的に切断して、「鼻汁を分泌しろ」という信号が鼻の粘膜に伝達されないようにすることです。局所麻酔でもできますが、痛みや出血のことも考えると全身麻酔の方がおすすめです。左右両側の後鼻神経を切断すると、所要時間は1時間前後となります。

上記以外にも慢性副鼻腔炎（ちくのう症）など鼻閉や鼻汁の原因になる病気と有効な治療法がありますので、お悩みの方は耳鼻咽喉科にお越しください。